

出願資格と入学者選抜試験

※詳しい内容は「令和8年度 鳥取看護大学大学院
入学者選抜・学生募集要項」をご覧ください。

出願資格

4年制大学の卒業生、短期大学や専修学校の卒業生で一定の要件*を満たす者 等
*上記一定の要件を満たす者に関しては、入学者選抜・学生募集要項をご覧ください

入学者選抜試験日程

「一般選抜」および「社会人選抜」

	出願期間	試験日	合格発表	入学手続期間
I期	11月1日(土) ～ 11月6日(木)	11月16日(日)	12月1日(月)	12月2日(火) ～ 12月12日(金) 【必着】
II期	1月28日(水) ～ 2月6日(金)	2月15日(日)	2月22日(日)	2月23日(月) ～ 3月6日(金) 【必着】

※出願前に必ず「出願前相談」を行ってください。

※I期の入学者選抜試験において定員を満たした場合、II期の入学者選抜試験を実施しないことがあります。

社会人入学生への配慮

長期履修制度

社会人学生（現役看護職の方など）は、研究活動・学修活動の時間が限られ、年間に修得できる単位数にも限りがあることが想定されます。そのような方は、「長期履修制度」を活用することができます。「長期履修制度」とは標準修業年限2年のところを、3年または4年と予め設定して計画的に履修することができる制度です。
なお、授業料については、標準の修業年限（2年）に支払うべき授業料総額を、あらかじめ設定した修業年限（3年または4年）で分割して支払うことが可能です。

夜間開講

授業は、履修する学生の勤務状況等を考慮し、平日の夜間及び土曜日開講、集中講義などを組み入れ学修しやすい時間割の設定に配慮します。

学費（初年度）

90万円 （入学金 20万円、授業料 60万円、教育・設備充実費 10万円）

奨学金制度

下記の奨学金をはじめ、各都道府県および諸団体法人で運営している奨学金が利用できます。

名 称	金 額	種 類
鳥取県看護職員修学資金	月額 8.3万円	貸与 ※鳥取県内就業5年経過後、全額免除
日本学生支援機構奨学金	月額 〈第1種〉5万円、8.8万円 〈第2種〉5万円～15万円	貸与 〈第1種〉無利子 〈第2種〉有利子

【お問い合わせ先】

学校法人藤田学院 鳥取看護大学 入試広報課 TEL：0858-26-9171（直通）

HP <https://www.tcn.ac.jp/> E-mail nyushi1@tcn.ac.jp

〒682-8555 鳥取県倉吉市福庭854 TEL. 0858-27-2800（代表） FAX. 0858-27-2803

鳥取看護大学

検索



鳥取看護大学 大学院

看護学研究科

Graduate School of Nursing Science



看護学専攻（修士課程）
Master's Program in Nursing Science

令和8年度入学者用

GUIDE BOOK 2026



マスコットキャラクター
がんとりい☆

教育理念

本学は、地域に根ざしたヒューマンケアを実現するために、以下の3つの人材育成を教育の基本理念として掲げます。

- 専門的な基礎知識と技能を持ち、豊かな人間性で患者に寄り添う人材**
感性豊かなコミュニケーション力、人間に対する深い洞察力、社会的倫理観、そして人に寄り添う温かい感性を持つ人材を育成します。
- 地域医療・在宅医療を支える人材**
地元山陰の地域特性を踏まえて、高度医療はもちろんのこと、地域医療・在宅医療を支え、多職種と連携・協働する人材を育成します。
- 地域で働くことに喜びと誇りを持つ人材**
地域に愛着と誇りを持ち、地域のさまざまな医療分野で人びとの命と健康を支えることに喜びを感じる人材を育成します。

大学院概要

入学定員／5名

修業年限／2年

※長期履修制度あり

学 位 ／修士（看護学）



教育の特色

育成する人材像

看護学の研究的背景を基盤に、日本・海外の如何にかかわらず、対象の属する文化・社会的背景と健康問題や健康に関する強みを理解した上で、それぞれの専門分野の視点からケアを構築する研究的視点を持つ実践看護者の養成を行う。このような意図の下、【看護教育学】【地域包括ケア】【メンタルヘルスケア】【看護イノベーション】【公衆衛生看護】【母性看護】【小児看護】【療養支援看護】【感染管理看護】【看護生体】の10コースを配置します。

10コースの内容

▶ 看護教育学

看護職は、現場において看護者として、教育者として、学習者として日々、生涯発達を遂げています。看護基礎教育における教育方法、臨地実習指導方法および看護継続教育における看護職の発達支援に関する研究、広く基礎看護学領域の研究テーマを取り扱い、看護学教育の質的向上を目指した研究活動に取り組んでいきたいと思ひます。

▶ 地域包括ケア

超高齢社会、多死社会を迎えた今、在宅ケアは、地域で暮らす人々の生命だけではなく、生活者として包括的に人を見る力が求められます。在宅ケアの様々な視点をテーマに研究に取り組めまひす。

▶ メンタルヘルスケア

精神保健看護学に関する研究をテーマとします。精神保健看護学領域において対象となる人、およびその援助者、その両者への援助方法や教育方法について、現状の改善に少しでも貢献することを目標に研究できればと思ひます。

▶ 看護イノベーション

看護基礎教育および看護継続教育における教育方法、臨地実習指導方法などに関する研究や、地域包括ケアシステムにおける「まちの保健室」のあり方、地域リソースを活性化させるための取り組みについて関する研究をテーマとして設定します。

▶ 公衆衛生看護

地域の健康づくりやQOLの向上を目指した公衆衛生看護活動に関することをテーマとします。ヘルスプロモーションの推進、ソーシャルキャピタルの醸成などにより人々のエンパワメントにつながる研究ができればと思ひます。

▶ 母性看護

令和8年度 開講予定

▶ 小児看護

小児看護に関する研究をテーマとします。子どもと家族の看護に関する課題、小児看護の技、心身障がい児と家族、また子どもの「健康をつくる力」の育成など健康な子どもと家族についても研究テーマとして設定できます。

▶ 療養支援看護

がんをはじめとする療養上の支援を必要とする患者(Cancer survivorsなど)とその家族のQOLの向上、エンパワメントにつながる看護に関する研究ができればと思ひます。看護の対象や看護職への教育方法に関する研究テーマも設定できます。

▶ 感染管理看護

令和8年度 未開講

▶ 看護生体

得られた知見を看護実践や健康増進に活用することを目的とする、看護の視点に立った人体の構造・機能に関する研究をテーマとします。解剖学研究、解剖生理学(形態機能学)教育に関する研究も行うことができます。

「看護学の『知』」の探究… ともに学び合ひまひしょう☆

本研究科は、「地域に浸透した看護実践者」の育成をめざし、2019年4月に開設され、2021年3月にはじめての修了生を輩出しました。現場の課題に向き合ひ、看護学の探究により、現場にフィードバックし、看護実践の資源として看護の質的向上をはかることをめざしています。開設以来、看護の現場を担う院生たちは、専門領域の経験と知見を有する教員や院生同士での活発な討議により、日常の疑問や課題を研究的姿勢で探究されてきました。看護学は、看護の対象となる人を知り、人に寄り添ひ・向き合ひ、人びとの健康に深くかかわる温かく深い学問領域です。看護の主要概念といわれる「人間」「環境」「健康」「看護」の一つひとつへの理解に際限はなく、いつもダイナミックな知的好奇心にあふれています。看護学研究科は、そのダイナミックな学問における思考過程と実践過程を磨く創造的で開発的な学びの場です。現場を大切にとらえ直し、実践を問ひ直し、わくわくする「看護学の『知』」を探究する過程から、実践における新たな発見や創造を志向し、看護実践の質向上に向けて、ともに学び合ひていまひしょう。



研究科長
古都 昌子 教授

教育課程表

看護学の研究的視点を持ちながら地域に浸透して自身の専門性を活かしたケアを構築し、地域とともに歩む実践看護者の養成をめざし、「基盤科目」「専門科目」「特別研究科目」と段階を踏んで学びます。その具体的な科目は以下の通りです。

基盤科目	看護理論	看護研究方法論	Glocal Nursing Field Work
	看護倫理学特論	保健統計学特論	形態機能学特論
	看護病態学特論	がん看護論	地域イノベーション看護論
	看護コンサルテーション論	看護職発達支援特論	国際看護特論
専門科目	看護教育学特論Ⅰ	看護教育学特論Ⅱ	地域包括ケア特論Ⅰ
	地域包括ケア特論Ⅱ	地域精神看護特論Ⅰ	地域精神看護特論Ⅱ
	母性・小児看護学特論Ⅰ	母性・小児看護学特論Ⅱ	療養支援看護特論Ⅰ
	療養支援看護特論Ⅱ	感染管理看護特論Ⅰ	感染管理看護特論Ⅱ
	看護生体特論Ⅰ	看護生体特論Ⅱ	
特別研究科目	特別研究		

大学院生メッセージ

看護に迷っていたら、ぜひ

鳥取看護大学で助手として働きながら大学院に通っています。病棟で勤務しているときから自身の看護実践をよりよくしたいと感じていたことや、教育や学生指導に興味があったことから大学院への進学を決めました。同期の院生たちとともに学ばなから視野が広がり、新しいものの見方ができるようになるにつれ、看護そのものに向き合う気持ちもさらに湧きあがってきました。現在は実習指導者と看護学生のコミュニケーションに関連した研究を進めています。小さな一歩かもしれませんが、一人でも多くの指導者と学生の役に立つような研究ができるように努力したいです。



矢田 丞さん
(令和7年度入学 7期生)

看護を学び直して臨床に活かしたい 修了した先にある自分を信じて学んだ2年間

看護師として勤務する中、臨床で起きている出来事やご家族の根底にある思いを、もっと別の見方で深くとらえることができるのでは...と考えるようになり、もう一度看護を学び直して臨床に活かしたい、その思いから進学を決意しました。大学院の授業では、先生方とのディスカッションを通じて自分の価値観が揺さぶられ、物事のとらえ方の枝が一本ずつ増えていく充実感がありました。そして、特別研究を通して、多くの論文を読む機会に恵まれ、先生方からたくさんのご指導をいただき、自分の視野や思考が広がっていく実感がありました。もちろん、探究は楽しさだけではなく、苦しさも伴います。しかし、その過程を得て乗り越えた今、新たな自分に出会うことができました。大学院で得た学びを、臨床の現場に活かせるよう努め、研究活動も継続していきたいと思ひます。



松本 敬子さん
(令和6年度修了 5期生)